



天平のひろば

NPO法人平城宮跡サポートネットワーク（NPO平城宮跡）
〒 630-8577 奈良市二条町 2-9-1 奈良文化財研究所内

☎/Fax 0742-34-34-7713
e-mail : npoheijyou @ yahoo.co.jp
http://www.heijyonet.nara.jp

第 25 回通常総会

NPO 平城宮跡サポートネットワークは 5 月 23 日会員 137 名、委任状 53 名、46 名出席のもと平城宮跡資料館講堂で令和 8 年度通常総会を開催しました。



1. 活動の基本方針

当会は、平城宮跡の歴史的・文化的価値の維持・保全に寄与することを事業の方向性として活動して参ります。その上で、本年も 8 年前に開園した「平城宮跡歴史公園」の利活用に積極的に対応するため、「歴史公園ガイド」や「平城京歴史講座」

に取り組み、「朱雀門ひろば」を起点に奈良時代を今に感じる諸活動を引き続き進めます。

さて、当会は本年 11 月には創立満 25 周年を迎えます。また、この創立に併せて創刊した会報紙「天平のひろば」が秋号で 100 号となります。更に、「平城宮跡歴史文化講座」も本年秋開催の講座で 20 周年になります。そこで、今日まで先輩諸氏が積み重ねてきた功績を称えつつ、当会事業の大きな区切りとして、本年秋に 25 周年記念事業を行って参ります。

一方、平城宮跡を訪れる人々に最適空間を提供するため、環境保全活動にも一層、積極的に推進するとともに地域・社会貢献活動にも着実に取り組んで参ります。

今後も引き続き、奈良文化財研究所、平城宮跡管理センターはじめ関連団体と協働して事業を推進し、平城宮跡の保存と利活用に努めて参ります。そして、これまで 24 年間の活動成果を踏まえ、新たな時代に対応している NPO 活動にチャレンジして参ります。

2. 今年度の主な事業計画

(1) NPO 平城宮跡サポートネットワーク創立 25 周年記念事業を実施します。

本年秋に「天平のひろば」100 号刊行記念と、「平城宮跡歴史文化講座」開催 20 周年と併せ、創立 25 周年記念事業を開催します。

(2) NPO 平城宮跡会員の増加と会の経営基盤の強化に努めます。

NPO 平城宮跡会員の新規加入の促進に努めるとともに、事業運営の効率化を推進します。

(3) 宮跡を最適空間に創出するため、環境保全活動に一層、取り組みます。

クリーン活動、緑の保全活動、安全安心活動に加えて、桜見守り活動にも取り組みます。

(4) 関連団体との協働事業の推進を図ります。

奈良文化財研究所を始め、平城宮跡管理センターなどと協働して教育活動やガイド、文化事業に取り組み、平城宮跡の歴史的・文化的価値の情報発信に努めます。

(5) 広報活動を充実強化します。

「天平のひろば」の紙面の電子化やホームページを充実し、情報発信を高度化します。

(6) 期待される NPO 活動の在り方について検討します。

NPO 平城宮跡 24 年の活動成果を踏まえ、時代に即応した事業へ再構築します。
(編集部)

<予告>NPO 平城宮跡 25 周年記念講演/祝賀・交流会

11 月 1 日 13 時 15 分～

ホテルリガレ春日野（奈良市法蓮町）

春の拓本づくり・かりうち体験

5 月 5・6 日 いざない館で古代瓦の拓本づくり（29 名）、古代のボードゲームかりうち（132 名）を実施しました。“奈良時代を今に感じる” 特別な空間づくりとして自作の古代衣装を身に着け、雰囲気づくりを醸し出していました。当日はかりうちキットが売り切れるほど盛況で、人気を博していました。
(文化・ガイド部会)



いざない館で拓本づくり



いざない館でかりうちゲーム

第 56 回平城宮跡歴史文化講座が 5 月 23 日資料館講堂で 219 名を前に「藤原家の人々(その1) 藤原不比等」と題し講演。



藤原不比等は飛鳥時代の 659 年に生まれ、奈良時代に入った 720 年に没した。極官は右大臣(太政大臣を追贈)。乙巳の変以降改新政治を進めた藤原鎌足の第二子。鎌足が不比等に「律令」を学ばせ、次代の国づくりを託そうとしたと

見え、不比等の養育を文筆を生業とする渡来系氏族、田辺史(たなべのふひと)に担わせる。名を史(フヒ)から不比等と名づけられその下で律令を学び、律令による国づくりの人生を歩む。不比等の青年期は資料が少ない。

西暦	不比等の時代の出来事	満年齢
663	白村江の戦い	4
667	近江遷都	8
672	壬申の乱	13
689	浄御原令頒布	30
694	藤原遷都	35
701	大宝律令施行	42
710	平城遷都	51
718	養老律令制定	59
720	日本書紀完成	61

壬申の乱後、同族の中臣金が近江方の重臣でもあり、藤原氏・中臣氏は、天武朝では劣勢だったとする向きもあるが、鎌足の娘二人は天武のキサキとなり、中臣氏も神祇伯に就くなど相応の活躍をしている。鎌足の死(669)後は、天智天皇のちには鎌足と婚姻関係にあった鏡王女が、不比等を後見したとみられる。鏡王女は有力な皇族で、病床を天武天皇が見舞うほど礼遇を受けている。またこの時期には、同世代の草壁皇子(天武の太子、文武の父)に近侍していたとみられ(学友か?)、草壁から不比等へ下賜された名刀が、**草壁**⇒**不比等**⇒**文武**⇒**不比等**⇒**聖武**と伝世、草壁系三代と不比等の深い絆が窺える。後に不比等は文武・聖武の後見人の立場になっていく。不比等の初見史料は、日本書紀 689 年の浄御原令頒布の記事で、律など法への精通が求められる「判事」に任命されている。続く大宝律令の編纂には副総裁の立場で主導し、701 年に完成させる。律令とは厳正に向き合ったようで、自分の息子の昇進も、「特別待遇は不要で令の定める通りでよい」と身内の者を叱ったとの逸話もある。律令編纂の事業は続き 718 年養老律令編纂がスタート(施行は孫の仲麻呂の代の 757 年)。これで散逸している大宝律令の

内容も引用、復元された形で今に伝わる。一方不比等は王権とのつながりも深めていく。藤原遷都後に少壮の官僚だった。

不比等は、阿閼皇女(文武の母、元明天皇)の信頼厚く後宮に絶大な力を持つ県犬養美千代と婚姻、701 年に安宿媛(後の光明皇后)が出生。697 年に娘の宮子を文武天皇のキサキにして、701 年は首皇子(後の聖武天皇)が生まれる。文武は不比等に、遣唐使の見聞した新しいモデルの都城平城への遷都と首皇子の将来を託して 707 年に逝去。

不比等は 708 年には右大臣となり、元明天皇とともに平城遷都の詔を発出し、710 年には平城遷都を実現させ、716 年に安宿媛を首皇子のもとに入内。717 年に右大臣のまま政権首班となる。720 年には、初の日本正史の日本書紀を完成させ、同年死去。

父の負託に応え律令国家の形成を担い、草壁皇子との絆から文武の即位を実現させ、遷都・聖武即位の道を整え、以後の藤原氏の繁栄の基礎を築いた生涯であった。(文化・ガイド部会)

次回 平城宮跡歴史文化講座・記念講演

11 月 1 日 13 時 15 分～

ホテルリガーレ春日野(奈良市法蓮町)

渡辺晃宏(奈良大学教授)

「藤原氏の人々(その2)―藤原北家と南家―」

続いて、NPO 平城宮跡創立 25 周年記念式典/祝賀会

県道守ロード活動を続ける人々



環境保全活動の皆さん

6 月 13 日「県道谷田・奈良線の美化運動」を 5 人で実施。気温も少し高くなってきましたが、平城宮跡境界を重点に活動を行いました。たばこの吸い殻、ペットボトル、空き缶、お菓子の包み袋等が毎回見られ、ゴミ袋(45L)計 1.5 袋分回収しました。(環境保全部会)

岩崎郁実さん（橿原考古学研究所主任技師）は5月9日128名を前に「平城京南方の宗教施設-左京八条一坊の発掘調査-」と題し講演。



平城京は五条大路を境に北側には高級貴族や官衙が集中し整備されているが、南側は下級役人の小規模の宅地や市場が建築されている。南側は記録も少なく発掘調査もあまり行われていなかったが、

京奈和道の建設に伴う調査で奈良市杏町（左京八条一坊九坪十坪）の発掘調査が行われた。

広い空間で坪を分割せずに利用され、築地塀と思われる規則的に並んだ柱穴で鉤型の遺構や瓦敷の盛土や石の列もあった。金銅押出仏や托鉢で使用される鉄鉢型土器や寺院の燃灯供養で使われる灯明皿が大量に廃棄されていた。宮殿や寺院でしか使わない瓦も大量に発掘され、井戸からは木質の共通性や出土状況から1本の木簡と推定される2点の木簡が出土した。表は「佛四升衆僧五升已可」裏は「天平勝宝四年四月□」□は七か九と読める。日付から“大仏開眼会”で造花を東大寺に献上したか、珍品を下賜された荷札かもしれない。「惣毫寺」という地名も残り古代寺院が存在していたことが推定される。

（編集部）

永澤拓志さん（木津川市文化財保護課課長補佐）は6月12日135名を前に「高麗寺跡を未来へつなぐ-木津川市の史跡整備-」と題し講演。



高麗寺跡は、高句麗から渡来した氏族泊（高麗）氏と関係する飛鳥時代に創建された寺院跡である。昭和13年地元の瓦業者であった中津川保一氏が古代寺院跡を発見した事により本格的に発掘調査が開始され、昭和15年の調査で寺域は東西約190m、南北180mであることが判明し、国の史跡に指定された。史跡整備は平成22年から開始され、令和3年に史跡公園として完成した。

整備においては、雨水が史跡地内に流入して池のようになっていたため、まず排水計画を立てて排水路を設置した。その後発掘調査を基に金堂の瓦積基壇の復元工事を開始。試行錯誤しながら完成した平

瓦を半分に割り、平積みして基壇を作り、周囲に石敷きも巡らせた。塔は基壇の中心である心礎を発掘調査後地中に埋め戻し、その上に舍利孔を穿った復元心礎を露出して設置。周囲に盛土をして、半分に割った平瓦と軒平瓦で瓦積基壇が復元された。瓦積基壇に使用された瓦の裏には、地元の小・中学生がメッセージなどを書いて実際に平瓦を平積みする体験もしたそうである。

このように復元整備が終了した史跡が、今後周辺の文化財や施設とのネットワーク作りをして多くの人々が訪れる場所になり、南門跡や築地塀が整備されることを期待したい。（編集部）

江浦 洋さん（元興寺文化財研究所研究員）は、7月11日149名を前に「考古学から見た古代の医療」と題し講演。



古代の医療施設として宮には五位以上の貴族のために典薬寮があり医師がいて薬も保管されていた。庶民には宮外に施薬院などがあつた。諸国にも医師や

医学生が配置されていた。藤原宮跡の西南区域から薬物に関わる大量の木簡と鉾物性薬物が出土されている。平城宮跡では西南の門である若犬養門から官司が薬物の搬出を申請する木簡が発掘されていて、宮の西南区域に典薬寮があつたと推定されている。

陸奥国多賀城で『集驗方』で医学教育され、平城京では医学生が『葛氏方』を書写し勉強している。藤原宮では『本草集注』を準拠して処方されているなど唐から医学書を取り寄せ活用されていて医療水準の高さが分かる。

平城京の東北地域から石製品が出土した。石片は、山田寺跡から出土された「温石」と類似していて唐の初源的なカイロではないか思われた。形状や材質から研究を進めると大宰府から発掘されていた石片と酷似しており韓国でも類似出土品があり新羅からの外交使節団から購入した砥石か磨石かもしれない。（編集部）

次回の平城京歴史講座(いざない館)

- 8月8日：和田花（奈良市埋蔵文化財センター技術員）
「平城京に暮らす人々がささげた祈り」
- 9月12日：中本和（万葉文化館主任研究員）
「古代の三月三日節会」
- 10月10日：片岡真純（正倉院事務所情報発信室長）
「奈良時代の染織文化」



1996 年兵庫県宝塚市生まれ。愛知県岡崎市で小学校から高校まで過ごす。2020 年神戸大学工学部卒業、2022 年東京大学大学院工学系研究科修士修了、同年魚谷繁礼建築研究所(設計職)。2024 年奈文研

建造物遺構研究室 AF。2026 年 4 月より奈文研に採用、現在に至っています。大学では設計を中心に勉強し、大学院では日本建築史を研究。京都の近世寺院の建築の歴史、主に仁和寺を研究したとのことで、いざない館歴史講座でも発表していただきました。

魚谷建築研究所では、京都古民家のリノベーションなどに携わっていたそうで、今も京都から電車で奈文研に赴いています。奈文研の AF の時に建設中の東楼に関わり始めました。東楼は掘立柱と礎石建ちの柱を併用していますが、礎石建ちにすると柱が微妙にずれたりしても少し動きに余裕があるとのこと。少し前から東楼の柱などの計測を始め、建ってからどのように変化していくのか、観察研究することで復原建物の維持管理に役立てたら良いのではと言われます。東楼など復原建物の説明パネル設置などでもできることがあればやっていきたいと話されていました。

現在は、斑鳩町の町史に関わるお寺や神社、古い町並みの調査、並びに東大寺境内にある近世・近代に建った塔頭や子院の調査及び、建物としての価値付けなどを内部調査も含めて行っているとのこと。

秋には、今まであまり経験のない発掘調査を行うことになるそうで、これからが楽しみだという意欲を感じました。趣味は、高校時代までしていたサッカーと映画鑑賞、そして美味しいものを食べることだそうです。最近京都市内の定食屋さん、外国観光客向けになってしまっているとの事。

最後に NPO 平城宮跡の活動は必要不可欠のものと言われ、インタビューの質問に誠実に答えていただきました。(編集部)

平城宮跡を“楽しむ”人たち

平城宮跡庭園を きれいにしよう

6 月 16 日作業前の準備運動に続き、草刈りが始まった。緑の保全部会のメンバーは平城宮跡庭園きれいにしようと活動が続けている。東側の梅の木の手入れに始まり梅の収穫も終えて、猛暑の前に低木の刈り込みを行っている。特に平城宮跡を訪ねてくる人々に良い印象を与えるため、いつまでもきれいにしたいと仲間の結束は堅い。

(緑の保全部会)



作業前の準備運動は欠かせない



生垣の刈り込み、芝刈りは注意が必要

訂正とお詫び/新規会員の紹介/募集

訂正とお詫び

本紙掲載済の渡辺晃弘は「渡辺晃宏」。長澤卓志は「永澤拓志」。小樽栓は「木樽栓」の表記誤り。謹んで お詫び申し上げます。今後掛かることの無きよう努めます。 広報部会長 大山達夫

新規会員の紹介* (7 月 1 日現在)

猪熊広章、関 吉幸、山中義弘、義村順子、脇本初美
(以上 5 名が入会) 順不同・敬称略

*新規会員募集/活動支援/入会のお申込み

◆個人が支援/活動 年会費 3,000 円

◆法人が支援/活動 年会費 10,000 円

◆お申込み: ☎ & FAX 0742-34-7713

編集後記

今年も酷暑になると予想されています。日頃から暑さに負けない体力づくりが大事ですが、先ずは無理をしないで、エアコン等を上手に活用し水分もしっかり補充して、暑い夏を乗り切りましょう。

(Y. S)